

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	(地域レベルでの取組基盤の整備)協働と持続性確保のための枠組み・体制の整備
手法名	バッファゾーン形成、農地整備、合意形成等の総合的な獣害対策体制の構築
主体	ひろしま人と樹の会、美和東ふるさと振興協議会
背景 (地域の課題)	獣害対策の一つとして、耕地際の山林を見通しよく整備することにより、山林と耕地の間に緩衝地帯(バッファゾーン)を設け、獣の出没を抑制するという方法がある。しかし、実際のバッファゾーンの整備では、基準や実施後の効果が不明確である。幅や伐採方法、時機などによっては、逆効果になることもあるため、バッファゾーンづくりを含む獣害対策の効果的な方法を考える必要がある。
手法/方 策の詳 細	<p>ひろしま人と樹の会では、ある地域を現場としてバッファゾーンづくりの実験を行った結果、バッファゾーンの手前に耕作放棄地があるとバッファゾーンの意味をなさないため、その管理が最も大変であることが分かった。</p> <p>また部分的な管理を行っても、被害は隣接地域に移動するだけで被害はなくならない。</p> <p>そこで獣害対策を効果的に進めるために、地域の協議の場を設け、以下のような手順で進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺を含めた合意形成 バッファゾーン及び耕作放棄地管理のための土地所有者等の把握、作業箇所・作業内容に関する地域の合意形成、不在地主の土地への対処方法の検討、隣接地への被害移転のリスクの説明などを、住民の協議の場を設けて行う。 ・防除技術・作業場所の検討 速効性のある対策(電柵、大型肉食獣の体臭のついたものを置くなど)と耕地・山林管理による長期的対策を組み合わせ、どこでどの防除作業を行うとよいかを、実際の被害状況等を考慮して検討する。 ・作業時期の検討 それぞれの場所で、農業・生活イベントと野生動物、草本植物への影響を考慮し、効果があり実行可能な作業時期を検討する。 ・管理作業の労力分担の検討 外部からのボランティアの協力等についても必要に応じ検討する。 <p>以上の手順を通じて地域の自然的社会的特性にあわせた整備指針と実施計画をつくり、実施する。</p>
手法・技 術的視点	イノシシや藪のような隠れる場所と、植物質の餌がある場所を生息域とするので、土地の利用・管理と併せて、一定のエリアと期間、整備のタイミングなどを、地域の合意と協力のもとで戦略的に計画立案することが、効果的・省力的な防除方法につながる。

まとめ: 目指すべきフレームワークは?

地域やボランティアの主体性
だけでは限界がある

複合的な意義づけも必要
景観／生物多様性／農林業振興・・・

地域特性やニーズに合わせた
明確なフレームワークの提示・共有

